

被災地事例を通して考える、 超高齢社会におけるICT活用の方向性

2013/2/14
藤沢 烈



1. はじめに
2. 高齢化が進む被災地
3. コミュニティ復興の課題はコミュニケーション
4. ICTコミュニケーションの成功要因
 - ①福島県飯館村「村民の声ネットワーク」
 - ②岩手県大船渡市「まっさきデジタル公民館」
5. 日本全体でのコミュニティ意識の希薄化
6. まとめ

- 本WGでは、ICT利活用を通じて、超高齢社会の活力が引き出されることが期待されている
- そのための要件を知る上で、いち早く高齢化が進む被災地での取り組みが参考になる
- 被災地での成功事例・失敗事例を見て頂いて、日本全体での活用のあり方について考えて頂きたい

1. はじめに

2. 高齢化が進む被災地

3. コミュニティ復興の課題はコミュニケーション

4. ICTコミュニケーションの成功要因

①福島県飯館村「村民の声ネットワーク」

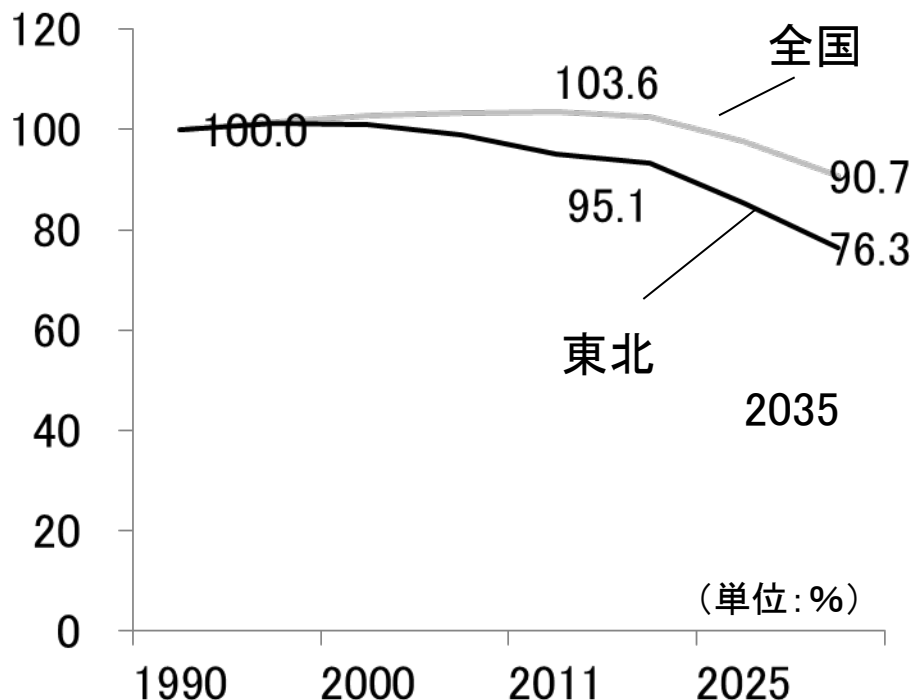
②岩手県大船渡市「まっさきデジタル公民館」

5. 日本全体でのコミュニティ意識の希薄化

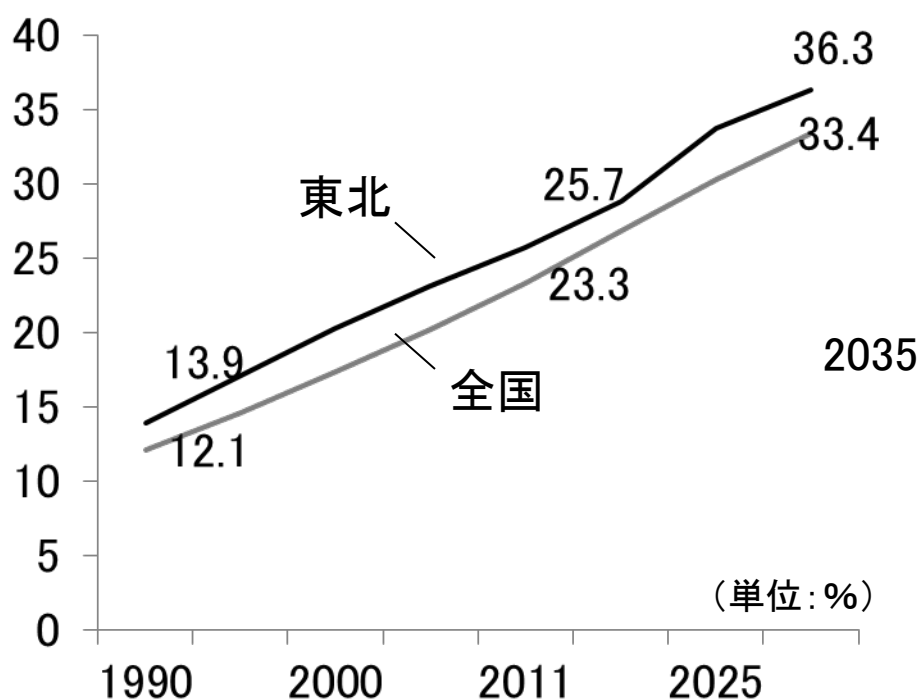
6. まとめ

2. 高齢化が進む被災地

人口増減率の推移と将来の推計



高齢化率の推移と将来の推計

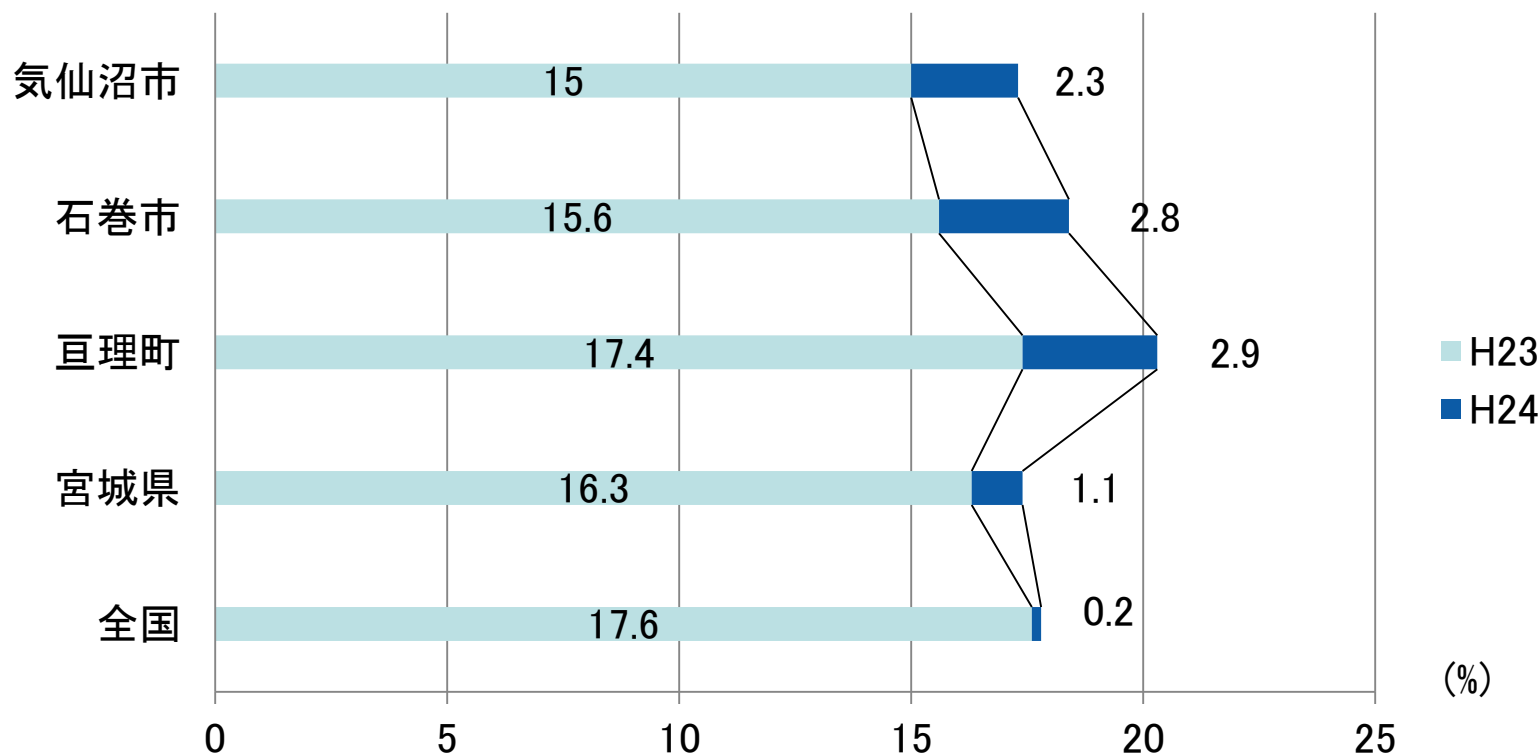


- 震災以前から人口減少傾向にあり、2035年には1990年の約4分の3に減少
- 高齢化比率も震災以前から全国に比べて高い水準で推移
- 震災以前から少子高齢化が進む

出典：国立社会保障・人口問題研究所 日本の将来推計人口/都道府県別将来推計人口より

2. 高齢化が進む被災地

要介護・要支援の認定率の推移 (H23年→H24年の推移)



- 東日本大震災後、要介護認定を受ける人は増加。津波被害が甚大だった沿岸部は、増加傾向が表れている
- 家族が犠牲になったり、自宅を失って隣近所とのつながりが絶たれ、自力での生活が難しくなった人が増えている

※要介護認定者数は65歳以上の数。認定率は65歳以上人口に占める認定率

出典：河北新報2012年08月17日 (http://www.kahoku.co.jp/spe/spe_sys1071/20120817_02.htm)

1. はじめに

2. 高齢化が進む被災地

3. コミュニティ復興の課題はコミュニケーション

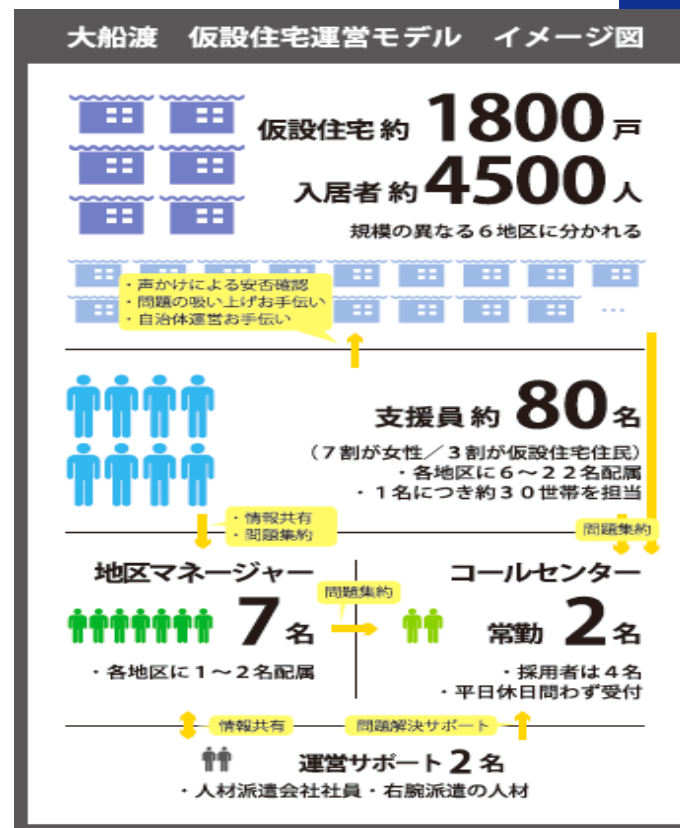
4. ICTコミュニケーションの成功要因

①福島県飯館村「村民の声ネットワーク」

②岩手県大船渡市「まっさきデジタル公民館」

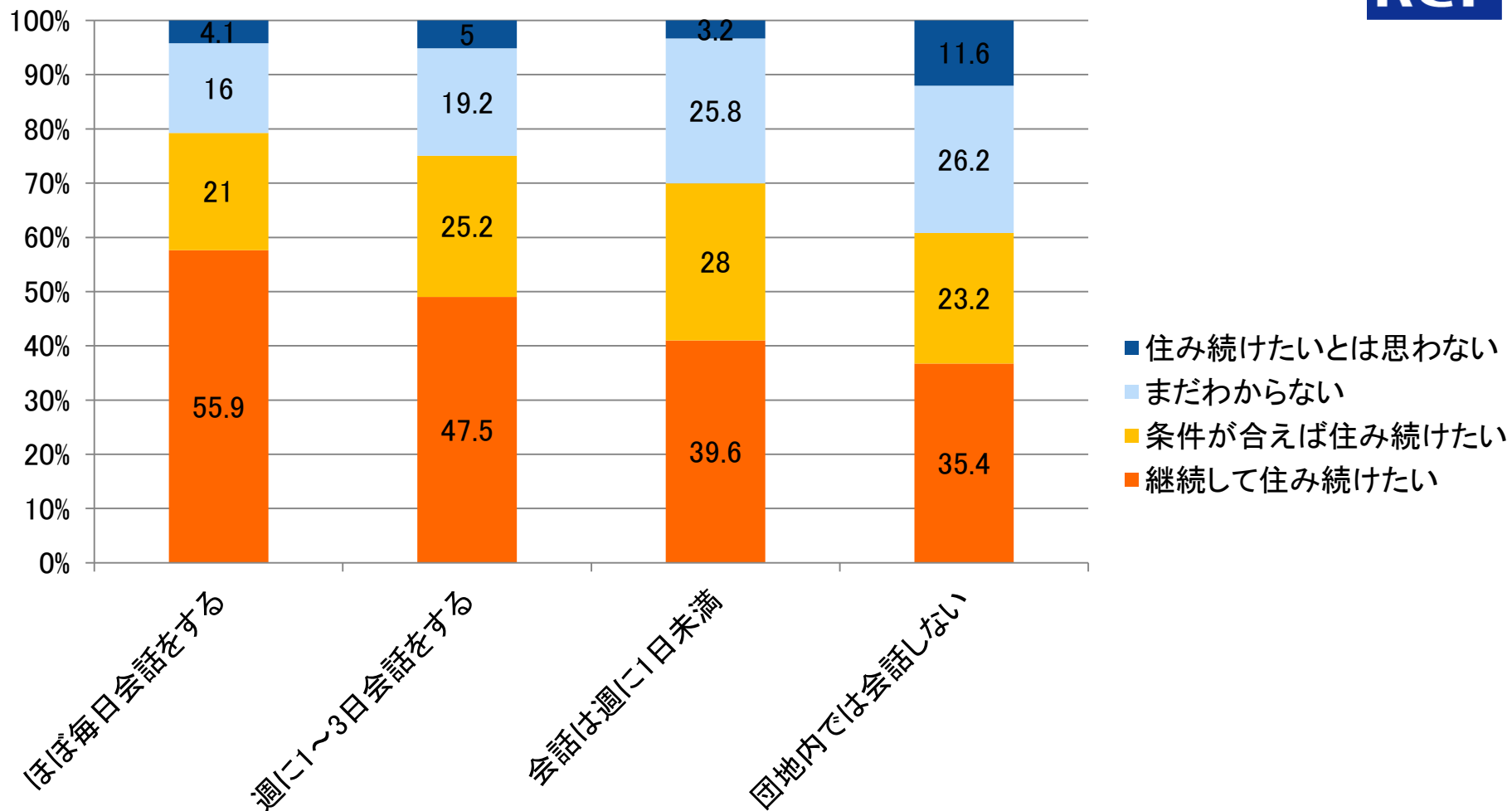
5. 日本全体でのコミュニティ意識の希薄化

6. まとめ



- 北上市とNPOが企画、人材派遣会社が運営。大船渡市内全37か所の仮設住宅支援事業を実施
- 各仮設住宅団地に「支援員」が常駐し、住民への声掛け、集会所・談話室の運営、自治会のお手伝いなどを行っている

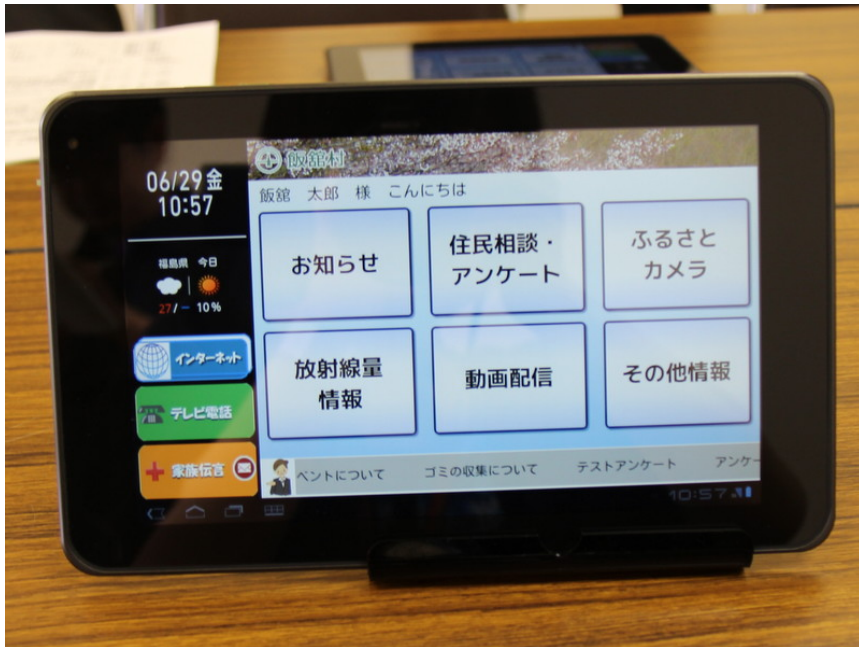
出典：東北復興新聞 2012年1月



- 団地内の会話の頻度が高い住民は、継続して住み続けたいと回答する傾向が高い

参考: 応急仮設住宅調査住宅調査(2012年8月) 調査データ

1. はじめに
2. 高齢化が進む被災地
3. コミュニティ復興の課題はコミュニケーション
4. ICTコミュニケーションの成功要因
 - ①福島県飯館村「村民の声ネットワーク」
 - ②岩手県大船渡市「まっさきデジタル公民館」
5. 日本全体でのコミュニティ意識の希薄化
6. まとめ



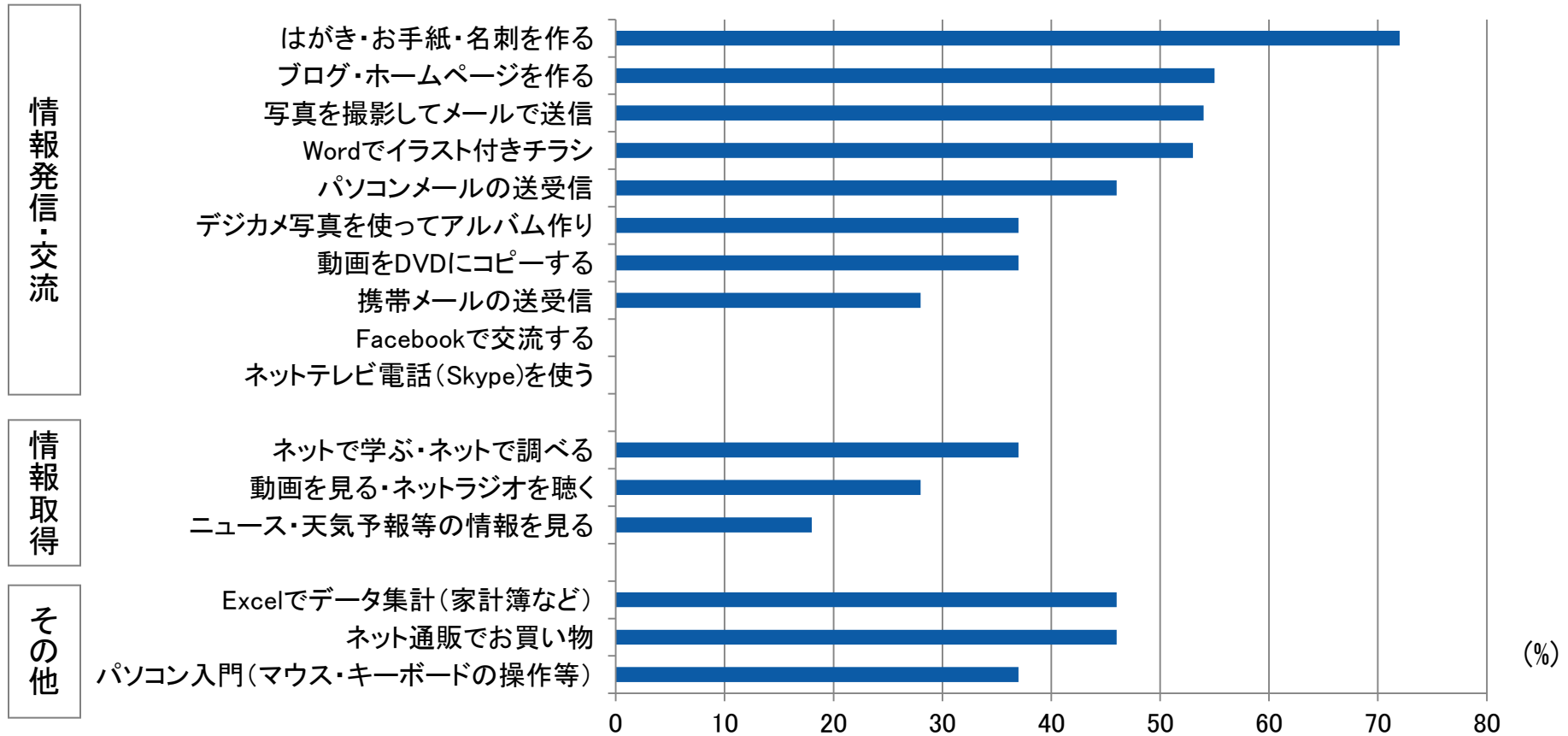
- 村民同士や、村役場とのコミュニケーションを目的に、全世帯に計2,300台を配布
- 「お知らせ」「住民相談・アンケート」「ふるさとカメラ」「放射線量情報」等の情報提供と、「テレビ電話」機能



- 被災地域の公民館にネット環境を設置
 - 毎月、東京から寄席ライブ映像を提供
 - ICTボランティアによるパソコン・ネットの相談受付
 - 「デジタル公民館まっさき」WEBサイト構築とfacebookとの連携
- 情報通信技術を用いた活動をいまでも毎月継続しており、被災住民のコミュニティ形成に役立っている

12. 成功要因① 「情報取得」ではなく、「情報発信」が目的

大船渡市末崎町 住民ITアンケート結果「携帯とPCとインターネットでやりたいこと」



N数:11

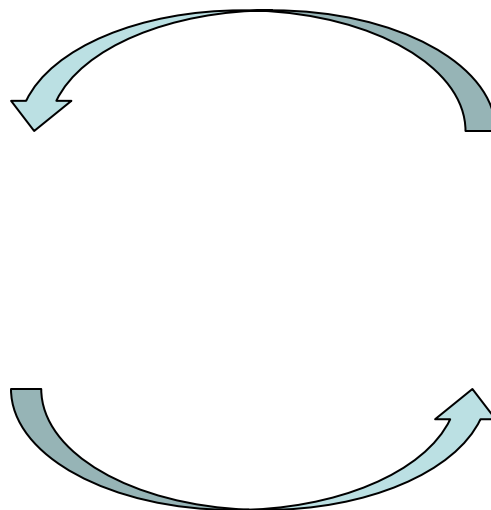
- 高齢者のICT活用は、「情報取得」ではなく、「情報発信」や「交流」を目的としたものである

出典: デジタル公民館まっさき PCアンケート結果 http://www.massaki.jp/?page_id=351



現地高齢者

サポート



内外ボランティア

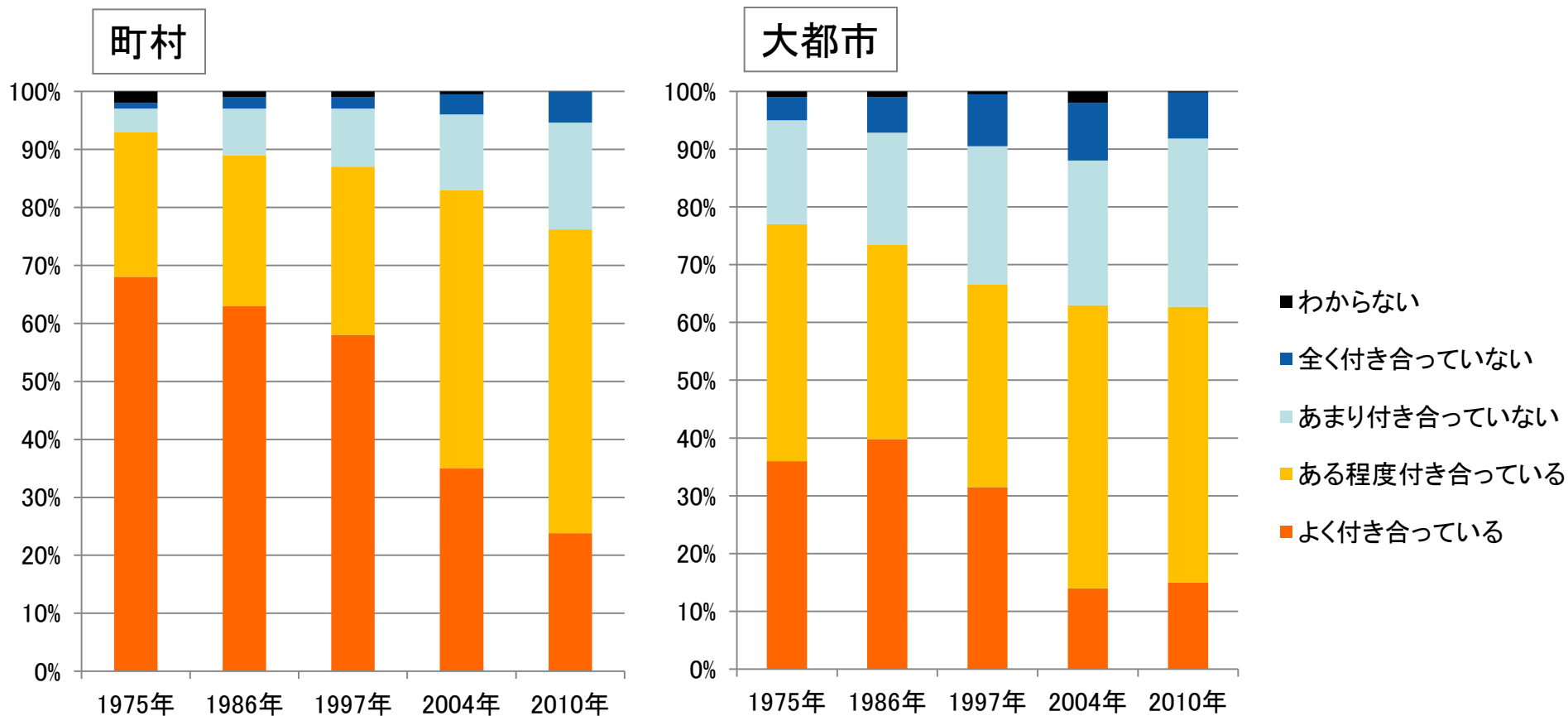
コミュニケーション

- 運営協議会メンバー、ITボランティア、公民館スタッフ、現地コーディネータなどによるワーキングチームにより事業を推進
- 地域内外のボランティアがサポートすることで、そこにコミュニケーションが生まれ、さらにサポートが続くという好循環が続いている
- その仕組みにより、地域全体がICTを活用する芽が出ている

写真:復興支援ITボランティアHP http://u-shien.jp/it_volunteer/photo

1. はじめに
2. 高齢化が進む被災地
3. コミュニティ復興の課題はコミュニケーション
4. ICTコミュニケーションの成功要因
 - ①福島県飯館村「村民の声ネットワーク」
 - ②岩手県大船渡市「まっさきデジタル公民館」
5. 日本全体でのコミュニティ意識の希薄化
6. まとめ

近所付き合いの程度の変遷



- 大都市においても町村においても、近所付き合いの程度は減少している。

出典：平成18年版厚生労働白書「我が国の社会保障を取り巻く環境と国民意識の変化」

1. はじめに
2. 高齢化が進む被災地
3. コミュニティ復興の課題はコミュニケーション
4. ICTコミュニケーションの成功要因
 - ①福島県飯館村「村民の声ネットワーク」
 - ②岩手県大船渡市「まっさきデジタル公民館」
5. 日本全体でのコミュニティ意識の希薄化
6. まとめ

- ① コミュニティの成熟度は、コミュニケーションの質量拡大が鍵。コミュニケーションが多いと、それと共に、自立再建、勤労意欲、地域への愛着が高まっていく
- ② 「情報発信・交流」を目的とし、「地域内外のボランティアサポートと連携」することでICT活用の好循環をつくる必要がある
- ③ 被災地に限らず全国的にコミュニティは失われつつあり、ICTを活用した交流促進は大きな課題
- ④ ICTコミュニティが発達した地域を軸に、ICTを通じた地域-地域の関係づくりを促進する取り組みが必要